

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 3 部門第 2 区分

【発行日】平成24年6月7日 (2012.6.7)

【公表番号】特表2010-530849(P2010-530849A)

【公表日】平成22年9月16日 (2010.9.16)

【年通号数】公開・登録公報2010-037

【出願番号】特願2010-511309(P2010-511309)

【国際特許分類】

C 0 7 K	7/08	(2006.01)
A 6 1 K	38/00	(2006.01)
A 6 1 P	1/04	(2006.01)
A 6 1 P	1/00	(2006.01)
A 6 1 P	1/10	(2006.01)
A 6 1 P	1/14	(2006.01)
A 6 1 P	9/04	(2006.01)
A 6 1 P	9/12	(2006.01)
A 6 1 P	13/08	(2006.01)
A 6 1 P	35/00	(2006.01)
A 6 1 P	11/00	(2006.01)
A 6 1 P	29/00	(2006.01)
A 6 1 P	11/06	(2006.01)
A 6 1 P	1/18	(2006.01)
A 6 1 P	17/06	(2006.01)
A 6 1 P	35/04	(2006.01)
A 6 1 P	35/02	(2006.01)
A 6 1 P	3/06	(2006.01)
A 6 1 P	1/16	(2006.01)
A 6 1 P	27/06	(2006.01)
A 6 1 P	27/04	(2006.01)
A 6 1 P	1/02	(2006.01)
A 6 1 P	3/10	(2006.01)
A 6 1 K	45/00	(2006.01)
A 6 1 K	31/519	(2006.01)
A 6 1 K	31/53	(2006.01)
C 0 7 K	14/00	(2006.01)
C 1 2 Q	1/02	(2006.01)

【 F I 】

C 0 7 K	7/08	Z N A
A 6 1 K	37/02	
A 6 1 P	1/04	
A 6 1 P	1/00	
A 6 1 P	1/10	
A 6 1 P	1/14	
A 6 1 P	9/04	
A 6 1 P	9/12	
A 6 1 P	13/08	
A 6 1 P	35/00	
A 6 1 P	11/00	
A 6 1 P	29/00	

A 6 1 P 11/06
A 6 1 P 1/18
A 6 1 P 17/06
A 6 1 P 35/04
A 6 1 P 35/02
A 6 1 P 3/06
A 6 1 P 1/16
A 6 1 P 27/06
A 6 1 P 27/04
A 6 1 P 1/02
A 6 1 P 3/10
A 6 1 K 45/00
A 6 1 K 31/519
A 6 1 K 31/53
C 0 7 K 14/00
C 1 2 Q 1/02

【手続補正書】

【提出日】平成23年4月21日(2011.4.21)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

配列番号 2 ～ 5 4 および 5 7 ～ 9 8 のいずれか 1 つのアミノ酸配列から本質的になる、ペプチド。

【請求項 2】

治療有効量で存在する配列番号 2 ～ 5 4 および 5 6 ～ 9 4 のいずれか 1 つの配列を有するグアニル酸シクラーゼレセプターアゴニストペプチド、および薬学的キャリア、賦形剤または希釈剤を含む、単位用量での薬学的組成物。

【請求項 3】

前記ペプチドが、配列番号 8、9、10、58 または 59 である、請求項 1 に記載のペプチド。

【請求項 4】

前記ペプチドが、配列番号 8、9、10、58 または 59 である、請求項 2 に記載の薬学的組成物。

【請求項 5】

前記ペプチドが、配列番号 45 ～ 54 であり、該ペプチドが、細胞における c G M P 産生を増加させ、該ペプチドが、配列番号 1 ではない、請求項 1 に記載のペプチド。

【請求項 6】

前記ペプチドが、配列番号 45 ～ 54 であり、該ペプチドが、細胞における c G M P 産生を増加させ、該ペプチドが、配列番号 1 ではない、請求項 2 に記載の薬学的組成物。

【請求項 7】

前記ペプチドが、配列番号 87 ～ 98 であり、該ペプチドが、細胞における c G M P 産生を増加させ、該ペプチドが、配列番号 55 でも 56 でもない、請求項 1 に記載のペプチド。

【請求項 8】

前記ペプチドが、配列番号 87 ～ 98 であり、該ペプチドが、細胞における c G M P 産

生を増加させ、該ペプチドが、配列番号 5 5 でも 5 6 でもない、請求項 2 に記載の薬学的組成物。

【請求項 9】

前記単位用量の形態が、錠剤、カプセル、溶液または吸入製剤からなる群から選択される、請求項 2、4、6 または 8 のいずれか 1 項に記載の薬学的組成物。

【請求項 10】

潰瘍性大腸炎、過敏性腸症候群 (I B S)、非潰瘍性消化不良、慢性偽性腸閉塞症、機能性消化不良、偽性結腸閉塞、十二指腸胃逆流、オピエート鎮痛剤の使用に関連する便秘、胃食道逆流性疾患 (G E R D)、術後便秘、胃不全麻痺、神経因性障害に関連する便秘、胸焼け、不良な胃腸運動、うっ血性心不全、高血圧症、良性前立腺肥大 (B P H)、結腸癌、肺癌、膀胱癌、肝臓癌、唾液腺癌または皮膚癌、気管支炎、組織炎症、器官炎症、呼吸器炎症、喘息、C O P D からなる群から選択される状態を予防するためか、または処置するための組成物であって、配列番号 2 ~ 5 4 および 5 6 ~ 9 4 のいずれか 1 つの配列を有する、有効な投薬量のグアニル酸シクラーゼレセプターアゴニストを含む、組成物。

【請求項 11】

前記ペプチドが、配列番号 8、9、10、58 または 59 である、請求項 10 に記載の組成物。

【請求項 12】

前記組成物が、有効な用量の c G M P 特異的ホスホジエステラーゼのインヒビターと組み合わせ投与されることを特徴とする、請求項 10 または 11 に記載の組成物。

【請求項 13】

前記組成物が、有効な用量の c G M P 依存性ホスホジエステラーゼのインヒビターと同時または連続的に組み合わせ投与されることを特徴とする、請求項 12 に記載の組成物。

【請求項 14】

前記 c G M P 依存性ホスホジエステラーゼインヒビターが、スルジナクスルホン、ザブリナストおよびモタピゾン、バルデナフィルおよびシルデナフィル (s u l d e n i f i l) からなる群から選択される、請求項 13 に記載の組成物。

【請求項 15】

前記組成物が、有効な用量の少なくとも 1 つの抗炎症剤と組み合わせ投与されることを特徴とする、請求項 12 に記載の組成物。

【請求項 16】

抗炎症剤が、ステロイド系抗炎症薬または非ステロイド系抗炎症薬 (N I S A I D S) である、請求項 15 に記載の組成物。

【請求項 17】

ヒト疾患を処置するための薬物を製造する際の、配列番号 2 ~ 5 4 および 5 6 ~ 9 4 のいずれか 1 つの配列を有するペプチドのいずれか 1 つの使用。

【請求項 18】

前記ペプチドが、配列番号 8、9、10、58 または 59 である、請求項 17 に記載の使用。

【請求項 19】

細胞における c G M P 産生を増加させるための組成物であって、配列番号 2 ~ 5 4 および 5 7 ~ 9 8 のアミノ酸配列からなる群から選択されるペプチドを含む、組成物。

【請求項 20】

前記組成物を、ホスホジエステラーゼインヒビターと組み合わせ細胞と接触させることを特徴とする、請求項 19 に記載の組成物。

【請求項 21】

前記 c G M P 依存性ホスホジエステラーゼインヒビターが、スルジナクスルホン、ザブリナストおよびモタピゾン、バルデナフィルおよびシルデナフィルからなる群から選択される、請求項 20 に記載の組成物。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0021

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0021】

本発明の他の特徴および利点は、以下の詳細な説明および請求項から明らかになり、そしてそれらによって包含される。

本発明の好ましい実施形態では、例えば以下が提供される：

(項目 1)

配列番号 2 ~ 54 および 57 ~ 98 のいずれか 1 つのアミノ酸配列から本質的になる、ペプチド。

(項目 2)

治療有効量で存在する NO : 2 ~ 54 および 56 ~ 94 のいずれか 1 つの配列を有するグアニル酸シクラーゼレセプターアゴニストペプチド、および薬学的キャリア、賦形剤または希釈剤を含む、単位用量での薬学的組成物。

(項目 3)

前記ペプチドが、配列番号 8、9、10、58 または 59 である、項目 1 に記載のペプチド。

(項目 4)

前記ペプチドが、配列番号 8、9、10、58 または 59 である、項目 2 に記載の薬学的組成物。

(項目 5)

前記ペプチドが、配列番号 45 ~ 54 であり、該ペプチドが、細胞における c G M P 産生を増加させ、該ペプチドが、配列番号 1 ではない、項目 1 に記載のペプチド。

(項目 6)

前記ペプチドが、配列番号 45 ~ 54 であり、該ペプチドが、細胞における c G M P 産生を増加させ、該ペプチドが、配列番号 1 ではない、項目 2 に記載の薬学的組成物。

(項目 7)

前記ペプチドが、配列番号 87 ~ 98 であり、該ペプチドが、細胞における c G M P 産生を増加させ、該ペプチドが、配列番号 55 でも 56 でもない、項目 1 に記載のペプチド。

(項目 8)

前記ペプチドが、配列番号 87 ~ 98 であり、該ペプチドが、細胞における c G M P 産生を増加させ、該ペプチドが、配列番号 55 でも 56 でもない、項目 2 に記載の薬学的組成物。

(項目 9)

前記単位用量の形態が、錠剤、カプセル、溶液または吸入製剤からなる群から選択される、項目 2、4、6 または 8 のいずれか 1 項に記載の薬学的組成物。

(項目 10)

潰瘍性大腸炎、過敏性腸症候群 (I B S)、非潰瘍性消化不良、慢性偽性腸閉塞症、機能性消化不良、偽性結腸閉塞、十二指腸胃逆流、オピエート鎮痛剤の使用に関連する便秘、胃食道逆流性疾患 (G E R D)、術後便秘、胃不全麻痺、神経因性障害に関連する便秘、胸焼け、不良な胃腸運動、うっ血性心不全、高血圧症、良性前立腺肥大 (B P H)、結腸癌、肺癌、膀胱癌、肝臓癌、唾液腺癌または皮膚癌、気管支炎、組織炎症、器官炎症、呼吸器炎症、喘息、C O P D からなる群から選択される状態を予防するためか、または処置するための方法であって、その必要のある患者に、NO : 2 ~ 54 および 56 ~ 94 のいずれか 1 つの配列を有する、有効な投薬量のグアニル酸シクラーゼレセプターアゴニストを投与する工程を包含する、方法。

(項目 11)

前記ペプチドが、配列番号 8、9、10、58 または 59 である、項目 10 に記載の方法。

(項目 12)

有効な用量の c G M P 特異的ホスホジエステラーゼのインヒビターを投与する工程をさらに包含する、項目 11 または 12 に記載の方法。

(項目 13)

有効な用量の c G M P 依存性ホスホジエステラーゼのインヒビターを、前記グアニル酸シクラーゼレセプターアゴニストと同時または連続的に、前記患者に投与する工程をさらに包含する、項目 12 に記載の方法。

(項目 14)

前記 c G M P 依存性ホスホジエステラーゼインヒビターが、スルジナクスルホン、ザブリナストおよびモタピゾン、バルデナフィルおよびシルデナフィル (s u l d e n i f i l) からなる群から選択される、項目 12 に記載の方法。

(項目 15)

有効な用量の少なくとも 1 つの抗炎症剤を投与する工程をさらに包含する、項目 12 に記載の方法。

(項目 16)

抗炎症剤が、ステロイド系抗炎症薬または非ステロイド系抗炎症薬 (N I S A I D S) である、項目 12 に記載の方法。

(項目 17)

ヒト疾患を処置するための薬物を製造する際の、配列番号 2 ~ 54 および 56 ~ 94 のいずれか 1 つの配列を有するペプチドのいずれか 1 つの使用。

(項目 18)

前記ペプチドが、配列番号 8、9、10、58 または 59 である、項目 17 に記載の使用。

(項目 19)

細胞における c G M P 産生を増加させる方法であって、配列番号 2 ~ 54 および 57 ~ 98 のアミノ酸配列からなる群から選択されるペプチドと、該細胞を接触させる工程を包含する、方法。

(項目 20)

前記細胞をホスホジエステラーゼインヒビターと接触させる工程をさらに包含する、項目 19 に記載の方法。

(項目 21)

前記 c G M P 依存性ホスホジエステラーゼインヒビターが、スルジナクスルホン、ザブリナストおよびモタピゾン、バルデナフィルおよびシルデナフィルからなる群から選択される、項目 20 に記載の方法。